

## 東京都地方独立行政法人評価委員会

### 令和5年度第3回試験研究分科会 議事録

1. 開催日時：令和5年7月20日（木）13：00～13：22
2. 開催場所：東京都庁第一本庁舎33階特別会議室N1
3. 出席委員：波多野委員、大橋委員、鈴木委員、武田委員、林委員
4. 議題：令和4年度業務実績報告
5. 議事：

午後1時00分 開会

【事務局】 定刻になりましたので始めさせていただきます。

本日はお忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

私、事務局を務めさせていただきます、東京都産業労働局商工部課長代理の神山と申します。分科会長に司会を引き継ぐまで、進行を務めさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

開会に当たり、事務局より本分科会の委員定足数について報告いたします。

東京都地方独立行政法人評価委員会条例第7条第3項及び第5項では、分科会は委員の過半数の出席で開催されるものとされております。

本日、分科会委員の皆様、5名の皆様にWEBでのご参加をいただいておりますので、本分科会は有効に成立していることを報告させていただきます。

それでは早速ですが、第3回分科会を始めたいと思います。

波多野分科会長、進行をよろしく願いいたします。

【波多野分科会長】 はい、ありがとうございます。

ただいまから、東京都地方独立行政法人評価委員会令和5年度第3回試験研究分科会を

開催いたします。

まず、議事に入ります前に、本分科会は公開となっており、議事録につきましてもホームページにて公開となりますことをご了承願います。

それでは、早速議事を進めてまいります。

なお、説明資料につきましては画面共有で映させていただきます。

本日の議事進行でございますが、「地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター令和4年度の業務実績評価について」を予定しております。皆様、どうぞよろしく願います。

では初めに、事務局から配付資料と審議の進め方について、ご説明をお願いいたします。

**【事務局】** それでは、配付資料の確認をさせていただきます。配付資料は全部で4点ございます。

資料1-1、令和4年度業務実績評価（評価説明用）です。資料1-2、令和4年度業務実績評価（全文）です。これは別ファイルになっております。資料2、令和4年度業務実績評価に対する評価委員会の主な意見。資料3、令和5年度試験研究分科会開催スケジュール（予定）です。資料の不足はございませんでしょうか。

（「なし」の声あり）

**【事務局】** ありがとうございます。

本日の審議の進め方でございます。まず、令和4年度業務実績評価について事務局から説明し、その後、質疑応答を行います。次に、評価の決定に対する分科会としての主な意見について事務局から説明し、その後、質疑応答を行います。最後に、今後のスケジュール等について東京都から説明させていただきます。

事務局からの説明は以上でございます。

**【波多野分科会長】** はい、ありがとうございます。

それでは資料1-1、令和4年度業務実績評価につきまして、事務局からご説明をお願い申し上げます。

**【事務局】** それでは、令和4年度の業務実績評価について事務局から説明させていただきます。

本分科会の開催に先立ちまして、7月5日、6日に第2回試験研究分科会を持ち回りで開催させていただきました。委員の皆様から様々なご意見を頂戴し、その結果を踏まえ、各項目の評価案を取りまとめておりますので、本日は委員の皆様のご意見を評価案に反映

した箇所を中心にご説明させていただきたいと思います。

まず、全体評価です。資料1-1のこちらのページでございます。全体評価は、中期計画の達成に向け、優れた業務の進捗状況にあるとしてA評価相当といたしました。こちらにつきましては、委員の皆様から妥当とのご意見をいただいているところでございます。

次に、高く評価すべき事項として3点挙げさせていただきました。

1点目は、都産技研全体として、研究開発と技術支援の両面で様々な事業を展開し、中期計画の目標値に向けて着実に実績を積み重ね、中小企業の製品化等に貢献したという点です。

2点目は、共同研究で企業等の製品化・事業化を後押しし、中期計画目標に向けて順調に実績を積み重ねている点。また、外部資金導入研究で新規採択件数が中期計画目標達成に向けて堅調に推移し、歳入総額も近年の実績を大きく上回っている点です。

3点目は、ヘルスケア産業支援室での支援体制を強化するなど、ヘルスケア分野における中小企業の製品開発等に大きく貢献したほか、東京2020大会のレガシーとして、トップアスリート向け製品開発で得られた知見を一般障害者向け用具開発に発展させるなど、社会的課題の解決に取り組んでいる点です。

一方、改善・充実を求める事項として2点挙げさせていただきました。

1点目は、各支所等の製品化支援等の充実です。各地域の特性に合わせた技術支援を実施し、多くの製品化につなげている点は評価しておりますが、市場ニーズを的確に捉え、より一層支援を充実していただくことを期待しております。大橋委員から、都産技研の資産の有効活用という観点から、各支所や食品技術センターにおいて、更なる取組の推進を求めるご意見をいただきましたので、その点を反映させていただいております。

2点目は、SDGsの実現やGXの推進に向けた組織運営です。都としては、都産技研はこれまでの研究開発や製品開発支援の分野でSDGsやGXの推進に貢献していると評価はしております。今後、中小企業等におけるSDGsの実現やGXの推進はますます重要になってくると認識しております。都産技研に期待される役割も大きくなっていくことから、都産技研が率先してSDGsの実現やGXの推進に向けた組織運営を行って、中小企業をリードする役割を果たしていくことを望んでおります。林委員から同様の趣旨のご意見をいただきましたので、その点を反映させていただいております。

以上の点を考慮し、全体評価を作成いたしました。

引き続き、項目別の評価に入らせていただきます。次のページをご覧ください。

第2回試験研究分科会でいただいた様々な意見を踏まえて再検討いたしました。その結果、各項目の評価は昨日ご説明したのから変更しないことといたしました。

続いて、項目別の説明をさせていただきます。冒頭でお話ししたとおり、委員の皆様の意見を反映した箇所を中心にご説明させていただきます。ページが飛びますが、項目12の海外展開です。武田委員からは、中小企業の海外への展開を的確に支援してきたという視点から、評価の中身を充実したほうがよいというご意見を賜りましたので、3点目の青字の部分を追加させていただきました。

簡単ではございますが、資料1、令和4年度業務実績評価の説明は以上でございます。

**【波多野分科会長】** よろしいですか、ほかの項目につきましてはよろしいでしょうか。

それでは皆さん、ありがとうございます。今、実績評価についてご説明いただきましたが、改めて委員の皆様から何かご意見、ご質問などはございますでしょうか。ございましたら、手を挙げる、もしくは発信していただければと思います。いかがでしょうか。

大橋委員、林委員の全体評価につきましては、コメントをうまくまとめていただいたと思いますが、何かご質問はございますか。ご意見はございますか。

**【林委員】** どうも、林でございます。お世話様でございます。

**【波多野分科会長】** ありがとうございます。どうぞお願いします。

**【林委員】** 組織運営ということに取り上げていただいて大変ありがたいなと思っております。特にほかにコメントはありません。よろしくお願いします。

**【波多野分科会長】** ありがとうございます。貴重なご意見をいただきました。組織全体の運営に関して、SDGs、GXというところですね。はい、ありがとうございます。

大橋委員、いかがでしょうか。

**【大橋委員】** はい、大橋です。ありがとうございます、ご説明いただきまして。

私も特に、今回については特にございませんので、もう記載のほうで十分かと思っております。よろしく願いいたします。

**【波多野分科会長】** はい、ありがとうございます。第2回目で皆さんが丁寧に意見を吸い上げていただきましたので、ありがとうございます。私のほうからも特にございません。

そうしましたら、ほかにないようでしたら、次に、資料2、令和4年度の業務実績評価に対する評価委員会の主な意見について、事務局からご説明をお願い申し上げます。

**【事務局】** では引き続き、資料2について説明させていただきます。

委員の皆様からいただいた様々な意見を基に重要な部分を集約させていただき、評価を決定するに当たって、評価委員会の意見をこのような形でまとめさせていただきました。

まず最初が、全体評価についての記述です。全体評価は先ほどご説明しましたとおり、都産技研の業務の状況は、優れた業務の進捗状況にあるとしておりますので、今後の業務運営に当たって、以下の事項について留意していただきたいと考えております。

一つ目が、武田委員からいただいた、都と都産技研が連携して社会的責任を果たしていることは、研究者のモチベーションにつながっている。都と都産技研の歩調を合わせた事業展開について、都民や中小企業等に分かりやすく示していくことを期待するというご意見です。研究者に民間ではなくて産技研で働いてもらうためにも、モチベーションは大切であり、都の方針と都産技研が共に歩んでいることを分かりやすく示せるとよいというご意見を反映しております。

二つ目が、大橋委員からいただきました、都産技研の資産の有効活用という観点から、各支所や食品技術センター等において、更なる取組の推進や、成果を積極的に発信していくことを期待するというご意見です。こちらに関しては先ほどご説明しましたとおり、改善・充実を求める事項にも反映させていただいております。

3点目が、武田委員からいただきました、都産技研を知らない中小企業等に届く情報発信や都産技研の取組を分かりやすく伝える情報発信など、より多くの中小企業等やそのニーズに応える戦略的な広報を行うことが望まれるという意見です。産業の在り方が変わる中でマーケティングを行い、新たな顧客やニーズに対応していくことも重要であり、ストーリー性のあるメッセージや研究員の顔が見える発信をしていくことが新規顧客の獲得につながるというご意見を反映させていただいております。

さらに、第四期中期目標及び中期計画の達成に向けて、2点のご意見を記載いたしました。

1点目は、鈴木委員からいただきました、都産技研の特許を活用した資金獲得など、知的財産の保有や活用等に経営的な視点を取り入れ、質の高い研究や人材獲得につなげていくことです。都産技研独自の特許を企業等に活動していただくことにより、都産技研研究員の資金獲得につなげることが質の高い研究や人材獲得につながるといったご意見です。より多くの企業等に知的財産権を活用していただくためには、都産技研が有用な知的財産権の出願を積極的に行っていく必要がある点に加え、保有している知的財産の見直しや放棄など、経営的な視点も重要である点もご意見として頂戴いたしましたので反映させてい

ただいております。

2点目は、林委員よりいただきました、SDGsやGHG削減目標の実現に向けて、都産技研が率先して取り組む姿勢を明確に示していくことで、中小企業の模範になることです。こちらは冒頭で改善・充実を求める事項で申し上げた点と重複しておりますが、都産技研自身がSDGsやGHG削減といった視点を持って組織運営に取り組み、中小企業の模範となってもらいたいといったご意見を反映させていただいております。こちらに記載されているもの以外にも、委員の皆様から今後に向けて様々な意見を賜っておりますので、今後、産技研と意見交換を行ってまいりたいと考えております。

簡単ではございますが、私からの説明は以上でございます。

**【波多野分科会長】** はい、ありがとうございます。

以上、令和4年度の業務実績評価に対する評価委員会の主な意見についてご説明いただきましたが、何か皆様、ご質問、ご意見はございますでしょうか。いかがですか。

鈴木委員、いかがでしょうか。

**【鈴木委員】** どうもありがとうございます。

非常によく書かれているので、特にございません。これで非常によいと思います。

**【波多野分科会長】** ありがとうございます。

武田委員、いかがですか。ご意見をいただいているのは、よくまとまっていますでしょうか。

**【武田委員】** はい、私のほうも組み入れていただいた意見で十分書かれていると思いますので、これ以上のことはございません。ありがとうございます。

**【波多野分科会長】** 林委員、よろしいでしょうか。最後のところは全体評価にも記載されていますが、よろしいですか。

**【林委員】** ありがとうございます。よろしく申し上げます。

**【波多野分科会長】** ありがとうございます。

大橋委員、いかがでしょうか。

**【大橋委員】** 特にございません。ありがとうございます。

**【波多野分科会長】** ありがとうございます。

私のほうからも、非常によくまとめていただきまして、2点の観点から期待することと、そして留意事項をポジティブで、しかも、さらに次に向かって進めるようなまとめ方をいただきましたので、特に私のほうからも追加はございません。ありがとうございました。

では、ここでお諮りしたいと思いますが、ほかにございませんようでしたら、こちらの意見書を当分科会の意見として付することにご異議ございませんでしょうか。よろしいですか。

(「なし」の声あり)

**【波多野分科会長】** ありがとうございます。

異議なしということで、以上で業務実績評価についての審議は終了といたします。

おかげさまで2回目の皆様の意見の反映が、議論がかなり詳細までしていただいたので、うまくまとめていただきましてありがとうございました。

次に、そのほかとして、今後の日程などについて、事務局からご説明をお願いいたします。

**【事務局】** 今後のスケジュールについて等です。資料3を今映させていただきます。

本日の第3回分科会をもちまして、分科会としての意見については確定いたします。今後、評価案を知事に諮り、評価を決定していきます。その後、第3回都議会定例会に評価結果について報告する流れとなっております。

分科会につきましては、年度末の令和6年3月末に、令和6年度年度計画(案)の報告について、第4回分科会を開催予定でございます。そのほか、適宜案件の追加がある場合は、評価委員会の全体会である親会が開催される場合もございますので、ご了承いただければと思います。

スケジュールは以上です。

**【波多野分科会長】** ただいまの事務局からの説明につきまして、ご質問などはございませんでしょうか。よろしいですか。

(「なし」の声あり)

**【波多野分科会長】** はい、ありがとうございます。

じゃあ、特にないようでしたら、続けて事務局からお願い申し上げます。

**【事務局】** 続いて、委員の退任についてです。3期6年の長きにわたり評価委員を務めていただきました波多野分科会長と林分科会長代理が、誠に残念ながら、本年10月13日をもちましてご退任されることになりました。任期中に予定されている分科会が本日で最後になりますので、波多野分科会長、林分科会長代理から一言ご挨拶をお願いできればと思います。

まずは、波多野分科会長からお願いできますでしょうか。

**【波多野分科会長】** それでは、僭越ながら私から最後、メッセージさせていただきます。

当初の評価委員会では、非常に評価疲れを起こすんじゃないかと思うぐらい、割とやり取りが大変で、意見を反映するということも、まだコミュニケーションがなかなか取るのが難しかったんですが、スムーズに、今回こんなに早く終わったように、評価の在り方というところを共有して、改善がどんどんなされていくということで、非常に高度な評価になったと思います。ただし、評価疲れが起こらないようにご留意いただければなと思います。

また、定量的な指標については、随時、国際的にも、また環境的にもどんどん変わっていっていますので、その定量的な目標が正しいかどうかというところも見直していただければなと思います。

100周年記念事業で策定されたビジョン2050を拝見しまして、それも時とともに変えていかなきゃいけないと思いますが、とてもすばらしいと思いました。その2050年のビジョンが実現するように、この評価を生かしながら進めていただければなと思いました。

以上です。どうもありがとうございました。お世話になりました。

**【事務局】** 波多野分科会長、どうもありがとうございます。

続きまして、林分科会長代理、一言お願いできますでしょうか。

**【林委員】** どうもお世話様でございます。武州工業の林です。

6年間にわたっていろいろコメント、中小企業という立ち位置でコメントをさせていただきました。すごく積極的に活動されているのが見えるようになってきてよかったなと思っています。これからもまだまだ中小企業に沿った活動をしていただけるとありがたいなと思いますし、実は今日は青梅の商工会議所の工業部会という部会がありまして、そこに多摩テクノプラザの職員の方もみえていただいて、ぜひ活用してくださいというお話をいただいたところでした。評価委員という立場で、私の立ち位置だと非常に都産技研の共同研究や何かはやりにくい立ち位置にいたのでできなかったんですが、これからはいろいろ利用させていただきたいと思っております。

言いたいことばかり言っていて恐縮でございます。ありがとうございました。よろしくお願ひします。

【事務局】 本当に長い間、誠にありがとうございました。

【波多野分科会長】 ありがとうございました。

【事務局】 なお、後任の委員の方を含めまして、今後の体制につきましては、また追ってご連絡させていただきたいと思っております。

事務局からは以上でございます。

【波多野分科会長】 はい、ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、令和5年度第3回試験研究分科会を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。

午後1時22分 閉会

—了—